

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/10/08 ～2022/12/05)

1. 勉学の状況

フィンランドでは主に教育について学んでいます。自分自身の怪我による渡航の延期もあり、慣れるのにかなり苦労しました。授業の方法としては、日本よりもかなりディスカッションの時間を多くとっている授業が多く、授業の評価や課題についても生徒と教授の対話によって、つくっていくというものが自分の受けた授業では多かったです。この点がとても新鮮でした。一人一人の主体性がないと授業自体が成り立たないので、その分準備に時間をかけて臨むなどの工夫をしないと、ついていくのがとても大変です。その場のインスピレーションだけでやるのは、言語の違いもありとても難しいと感じました。今も授業のスタイルなどに慣れるのに苦労している部分があります。言語についても、ボキャブラリーなどの基礎的な部分だけではなく、その場での瞬発力が足りていないと痛感しました。後になって表現が思いつくことが多く、もっと流暢に操ることができるようになればより楽しくなると感じているので、引き続き努力していこうと思っています。

遅れたことによって、当初の計画とはかなり違う内容になりましたが、次のセメスターからはより自由に授業をとっていくことができるので、学校見学などのフィールドワークにも参加しながら、より教育の分野の学びについて深めていくつもりです。Jyväskylä 大学では学校教育だけではなく、職場などでの adult education や幼児教育などの分野も多く研究されているので、学校教育に留まらず、多くの教育について触れながら、それらをまとめ言語化していくことを目標にして過ごしていきます。

またフィンランド語についても学んでいこうと考えています。こちらは互いの国の言語を教え合う授業があるので、日本語に興味のあるフィンランド人と教え合いながら学んでいきたいと思っています。

2. 生活の状況

生活に関しても慣れるのに最初はとても苦労しましたが、周囲の人のおかげで比較的早く慣れることができました。具体的にはチューターが学生村中を案内してくれたり、道を聞いた人が親切に大学中を案内してくれたり、共に留学している日本人も助けてくれたりなど、本当に多くの人にお世話になりました。また日本人とフィンランド人が交流できるコミュニティがあり、そのおかげで、2019年に千葉大に留学経験がある Jyväskylä 大学生とも仲良くなることができました。冬の装備をより安く整えるために、一緒にお店をまわってもらうだけでなく、家にも招待してもらい、一緒にフィンランド料理をつくったりなどもしました。

交換留学生同士の交流もあり、スペインからの留学生たちと一緒に日本対スペインのサッカーワールドカップの試合を見て、とても盛り上がりました。自分がサッカー好きということもあり、ワールドカップを他の国の人たちと一緒に見ることは一つの夢でもあったので、実現したときとても感動しました。



写真 一緒に作ったフィンランド料理
(サーモンスープ)

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/12/06 ~ 2023/3/31)

学業

新しいセメスターがスタートして、前回のセメスターでは満足に授業を取ることができなかった分、興味のある授業をできるだけ取れるようにした。そのうちの一つとしてフィンランドの教育の全般の概要を学ぶことができる授業を履修した。今までは大雑把に「フィンランドの教育が先進的である」と日本でよく言われているフレーズの範疇で理解していた事柄であったが、実際に概要に触れてみて、一人ひとりに本当にコミットすることができる制度であるということを感じた。特に大学教育に参加している人の年齢がとても多様で、自分の学びたいタイミングで学ぶことができる制度が整っていることに感動した。実際に自分自身が目で見たことなので、より印象に残っているのだが、同じ授業を受けている人が赤ちゃんを連れて教室に来ることは日常茶飯事であり、授業中先生の声より赤ちゃんの泣き声の方が大きいということもよく経験した。それ以外にも一旦仕事をしてから大学に戻ってきて学んでいる人や仕事をしながら大学の授業を受けている人など本当に年齢関係なく自分のタイミングで自分に合った学びを実践している人が多くいた。これは大学費用が無償化されていることや、それ以外にも住居などに対しても支援が行き届いていることが大きいと感じた。しかしその一方で、学生の特権を利用し続けなかなか卒業しないというような人も存在し、税金の無駄遣いだという声も実際にあることを耳にした。日本にいるときは特に問題点については聞く機会はなかったが、現場の声を聞くことができ、とても興味深く、国ごとに様々な形の教育があるのだなと改めて考える機会となった。

また、授業で出会った教授と個別で「日本とフィンランドの教育を語ろう会」を行うことができた。この機会を通して、より一層国ごとに教育は異なり、そこを比較する必要はないということを実感することができた。この会はまた別途行うことになっているので、別の機会に詳細については記述しようと思う。

生活

学業の面で記述したことと少し繋がる部分もあるが、3月にフィンランドでは選挙が行われた。日本のように街頭演説している姿は私の住んでいるところでは見ることはなかったが、様々な場所に候補者が立っていて、温かい飲み物を無料でくれるなど活動していた。私のフィンランド人の友達の情報ではフィンランドの投票率はその時その時によって違うが70%

くらいはいくのではないかとのことだった。実際に平日に大学の図書館で行われた期日前投票のブースには長蛇の列ができており、とても衝撃的な光景であった。それだけではなく、友達と選挙の話をしていると、全ての政党の政策や実際の現状の政治の問題点など細かく把握しており、自分自身はこの政策に感銘を受けているのでこの人に投票するという自分の意見をはっきりと持っていた。もちろん全ての人がそうであるわけではないだろうが、政治参加に対する意識が高く、自分の意見をはっきりと投票を通して主張する人が多いという印象を受けた。これは自分自身も本当に見習うべき姿勢であるなど強く感じるようになった。ちなみに結果としては、与党が僅差で敗れる結果となった。

またそのほかでは、フィンランドの冬は常に気温はマイナスであり、凍った湖がスケートリンクになるなど、様々な場所でスケートやスキーを楽しむ人が見られた。私は膝を怪我しているので、それほどウィンタースポーツを堪能できたわけではないが、それ以外にもオーロラを見ることができたりなどフィンランドの冬を経験することができた。



図 1 凍った湖がスケートリンクになった様子



図 2 オーロラ



図 3 第一回フィンランドと日本の教育を語ろう会